



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月8日

上場会社名 石原産業株式会社  
コード番号 4028 URL <http://www.iskweb.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤井 一孝  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務本部長 (氏名) 寺川 佳成

TEL 06-6444-1850

四半期報告書提出予定日 平成25年11月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	56,817	5.9	△1,447	—	△2,263	—	△10,842	—
25年3月期第2四半期	53,658	△2.0	2,365	△26.0	325	△49.7	3	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 △9,080百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 233百万円 (△41.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	△27.10	—
25年3月期第2四半期	0.00	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第2四半期	170,972	43,980	25.7
25年3月期	177,316	53,064	29.9

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 43,980百万円 25年3月期 53,064百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	105,000	4.5	2,300	△17.6	500	△85.9	△7,600	—	△18.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	403,839,431 株	25年3月期	403,839,431 株
26年3月期2Q	3,848,655 株	25年3月期	3,808,379 株
26年3月期2Q	400,013,775 株	25年3月期2Q	400,076,671 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1	当四半期決算に関する定性的情報.....	2
	(1) 経営成績に関する説明.....	2
	(2) 財政状態に関する説明.....	3
	(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	3
2	サマリー情報(注記事項)に関する事項.....	4
	(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動.....	4
	(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用.....	4
	(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示.....	4
	(4) 重要な偶発債務.....	4
3	四半期連結財務諸表.....	5
	(1) 四半期連結貸借対照表.....	5
	(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	7
	四半期連結損益計算書	
	第2四半期連結累計期間.....	7
	四半期連結包括利益計算書	
	第2四半期連結累計期間.....	8
	(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書.....	9
	(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	11
	(継続企業の前提に関する注記).....	11
	(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	11
	(セグメント情報等).....	11

## 1 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日）における世界経済は、米国で緩やかな景気回復が持続し、欧州でも債務危機問題の鎮静化とともに実体経済面でも底打ちの兆しが見られるなどプラス面もありましたが、一方で中国やインドなど新興諸国では経済成長率の低下が見られるなど、やや力強さには欠ける展開となりました。その中で国内経済は、政府の経済対策や金融当局の大胆な金融緩和により円安と株高が進み、全体的に底堅く推移しました。

当社グループの主力事業を取り巻く市場環境は、酸化チタンでは、国内需要は概ね前年並みに推移し、海外需要もようやく底打ちから回復傾向に転じましたが、市況の本格的な回復には至りませんでした。農薬では、世界的な農産物需要の高まりとそれを受けた農産物価格の上昇に伴って農薬消費量は持続的な拡大傾向にあり、この上半期についても南米やアジアなど新興地域での需要増が寄与し、世界の農薬市場は好調に推移しました。

このような状況の下、当社グループは経営全般にわたって徹底したコスト削減に取り組むとともに、昨年下半年から営業赤字に陥っている無機化学事業の業績改善策を鋭意検討してまいりました。その一環として、本年8月、シンガポール子会社での酸化チタン生産を終了して四日市工場に集約することを決定しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高568億円（前年同期比31億円増）、営業損益は14億円の損失（前年同期は23億円の営業利益）となりました。経常損益は、為替差損益の改善などで損益悪化幅が縮小し、22億円の損失（前年同期は3億円の経常利益）、四半期純損益は、特別損失でシンガポール子会社の生産終了と会社清算を前提とした固定資産の減損損失やその他追加発生費用見込額等112億円を計上したことなどから、108億円の純損失（前年同期は3百万円の四半期純利益）となりました。

事業の種類別セグメントの状況は次のとおりであります。

#### (無機化学事業)

酸化チタンは、国内販売では全般的に底堅い需要に支えられ前年同期並みの数量、金額を確保しました。また、海外販売でも数量面では主力市場であるアジアでの需要回復から前年同期を約1割上回りましたが、昨年夏場以降の海外市況下落の影響は依然大きく、売上高は225億円（前年同期比13億円減）となりました。

機能材料は、中国等での環境規制強化を背景に脱硝触媒用途向け販売が増加した他、導電性材料用途や化粧品用途向け販売も堅調に推移した結果、売上高は45億円（前年同期比6億円増）となりました。

利益面では、相対的に安価なチタン鉱石の使用拡大を進めるなどコスト削減に努めましたが、鉱石価格高騰の影響が色濃く残り、在庫評価が売上原価を押し下げる方向で働いた前年同期に比べ製造原価、販売価格両面から採算が悪化し、大幅な減益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は271億円（前年同期比6億円減）、営業損失は11億円（前年同期は31億円の営業利益）となりました。

## (有機化学事業)

農薬は、国内販売は、ほぼ前年同期並みの売上高に止まりましたが、海外販売では、主力剤が総じて各地域で売上を伸ばすとともに、為替円安の寄与もあって、売上高は前年同期を約2割上回りました。特に、欧州では除草剤の売上が大きく伸長した他、天候要因により需要が減退する不利な市場環境でありましたが、殺菌剤、殺虫剤とも増収となりました。ブラジルでは前期に引き続き殺菌剤の売上が伸びた他、殺虫剤、除草剤も増収となりました。利益面では、新規剤の農薬登録申請に向けた開発費用の増加などにより、営業利益は前年同期並みとなりました。尚、現在進める一連の新規剤の開発は順調に進んでおり、前期に引き続き、今期は幅広い害虫種に効果を示す殺虫剤について、主要国での登録申請に向け準備を進めています。

医薬は、受託製造している医薬原末の出荷が前期から当第2四半期にずれ込んだことから売上高が増加しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は282億円（前年同期比45億円増）、営業利益は4億円（前年同期並み）となりました。

## (建設事業)

建設事業は、売上高8億円（前年同期比7億円減）、営業損失1億円（前年同期は2億円の営業損失）となりました。

## (その他の事業)

その他の事業は、売上高5億円（前年同期並み）、営業利益は73百万円（前年同期並み）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失137億円の減価償却費及びその他の償却費28億円、減損損失58億円、関係会社整理損失引当金の増加48億円を加算し、たな卸資産の減少129億円と仕入債務の増加45億円等の収入に対し、売上債権の増加42億円等の支出があり、133億円の収入（前年同期は20億円の支出）となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得などにより21億円の支出（前年同期比8億円の支出減）となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の純減等により76億円の支出（前年同期は5億円の収入）となりました。

この結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は、前連結会計年度末より39億円増加の209億円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間の業績及び今後の見通し等を踏まえて、平成25年8月12日に公表しました平成26年3月期の通期業績予想（連結・個別）を修正しました。

詳細は平成25年11月8日に別途公表しました「第2四半期業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2 サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### (4) 重要な偶発債務

当社四日市工場内の土壌・地下水の汚染修復対策並びに工場内に存在すると推定される埋設物への措置費用については、当四半期累計期間に支出した費用及び当四半期末において合理的に見積もられる範囲内の費用を特別損失に計上し、それ以外で現時点において合理的に見積もることができない恒久的な汚染修復対策の費用及び埋設物の措置費用は計上しておりません。

#### 1 四日市工場内における土壌・地下水汚染への対応

コンプライアンス総点検後に実施した当社四日市工場内の土壌・地下水調査の結果、主に過去の生産活動に由来すると考えられる汚染が判明したため、当社は三重県生活環境の保全に関する条例に基づく届出書を、所管する四日市市に提出しました。その後、第三者の学識経験者による環境専門委員会の指導と助言の下、汚染状況及び汚染源の特定に関する調査、汚染の拡散防止策にかかわる設計データを収集してきております。

平成24年度までに、原因物質の除去や不溶化の工法検討のための試験施工を経て、汚染地下水の拡散を防ぐための揚水設備と水処理設備を設置しました。さらに試験的な揚水を経て、本格的な揚水を段階的に開始した他、これまでの調査や試験結果などに基づく新たな試験施工にも着手しました。

平成25年度は拡充した揚水設備による本格揚水の継続と、追加の揚水浄化処理設備の設置検討、不溶化の試験施工結果を受けた現場適用検討など、具体的な汚染修復対策についての検討を継続します。

#### 2 四日市工場内に存在すると推定される埋設物への対応

コンプライアンス総点検において公表した、四日市工場内において撤去を要すると考えられる埋設物等の現時点における調査結果は、下記項目に記載のとおりであります。将来的に一定の範囲での業績への影響は避けられないものと考えていますが、当該場所を含め工場内各所の空き地が、広くフェロシルトの仮保管場所となっている状況下では、効率的に詳細調査を継続することができず、現在も埋設物の種類・性状・埋設量等の全体概要の確認には至っておりません。

このような現状に鑑み、下記案件についての埋設物の埋設位置・範囲・性状・数量の特定や適切な撤去方法など更なる細部検討は、四日市工場内で仮保管中であるフェロシルトの最終処分が完了する平成27年度以降とし、それまでの間は、現在も実施している周辺環境への影響を継続的にモニタリングしてまいります。

##### ①第2グラウンドの埋設物

当該場所は、過去に沈澱池として使用されていた経緯から、合法的に処理された廃棄物も存在しており、これらと違法性の認められる埋設物を峻別の上撤去することとなります。埋設物の位置を特定するための確認調査の過程で、地中での金属反応と他の地層と異なる地質が存在することを確認しており、ボーリング及び試掘調査を実施した結果、一部の廃棄物(金属物)の埋設が確認されています。

##### ②旧SR(合成ルチル)工場跡地の無機性汚泥など

同工場跡地で仮保管していた施工地からの回収フェロシルトは、平成21年1月から搬出を開始し、搬出が完了した区画で一部掘削を実施しました。一部の掘削区画からは無機性汚泥が確認されています。

3 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,312	21,315
受取手形及び売掛金	25,611	30,514
商品及び製品	31,653	25,058
仕掛品	6,822	5,928
原材料及び貯蔵品	20,683	16,985
繰延税金資産	1,877	1,396
その他	1,789	2,179
貸倒引当金	△178	△197
流動資産合計	105,570	103,180
固定資産		
有形固定資産		
機械及び装置（純額）	22,911	19,749
その他（純額）	32,134	27,654
有形固定資産合計	55,046	47,403
無形固定資産	284	236
投資その他の資産		
投資有価証券	4,885	4,463
繰延税金資産	9,106	12,923
その他	2,510	2,852
貸倒引当金	△87	△88
投資その他の資産合計	16,415	20,151
固定資産合計	71,745	67,792
資産合計	177,316	170,972

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,939	17,891
短期借入金	39,346	38,296
1年内償還予定の社債	200	200
未払法人税等	318	380
フェロシルト回収損失引当金	2,466	2,513
関係会社整理損失引当金	—	4,817
その他の引当金	598	538
その他	9,842	9,875
流動負債合計	64,713	74,512
固定負債		
社債	1,400	1,300
長期借入金	39,325	33,539
退職給付引当金	8,634	8,954
フェロシルト回収損失引当金	5,393	4,264
その他の引当金	591	647
その他	4,193	3,773
固定負債合計	59,538	52,479
負債合計	124,251	126,992
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	43,420	43,420
資本剰余金	10,626	10,626
利益剰余金	2,163	△8,678
自己株式	△681	△684
株主資本合計	55,529	44,683
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	245	270
繰延ヘッジ損益	△64	△32
為替換算調整勘定	△2,674	△973
在外子会社年金債務調整額	28	32
その他の包括利益累計額合計	△2,464	△703
純資産合計	53,064	43,980
負債純資産合計	177,316	170,972



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	53,658	56,817
売上原価	40,912	47,316
売上総利益	12,746	9,500
販売費及び一般管理費	10,380	10,948
営業利益又は営業損失(△)	2,365	△1,447
営業外収益		
受取利息	21	27
受取配当金	57	60
為替差益	—	792
長期未払金一括返済益	317	—
その他	112	108
営業外収益合計	508	988
営業外費用		
支払利息	932	889
持分法による投資損失	553	458
為替差損	579	—
その他	482	456
営業外費用合計	2,548	1,804
経常利益又は経常損失(△)	325	△2,263
特別利益		
投資有価証券売却益	—	44
特別利益合計	—	44
特別損失		
固定資産処分損	355	174
関係会社整理損	—	11,249
その他	3	99
特別損失合計	359	11,522
税金等調整前四半期純損失(△)	△33	△13,742
法人税、住民税及び事業税	291	395
法人税等調整額	△328	△3,295
法人税等合計	△36	△2,899
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	3	△10,842
少数株主損失(△)	△0	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	3	△10,842

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	3	△10,842
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△61	25
繰延ヘッジ損益	14	31
為替換算調整勘定	263	1,551
在外子会社年金債務調整額	0	3
持分法適用会社に対する持分相当額	13	150
その他の包括利益合計	230	1,761
四半期包括利益	233	△9,080
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	234	△9,080
少数株主に係る四半期包括利益	△0	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△33	△13,742
減価償却費及びその他の償却費	2,863	2,801
減損損失	—	5,808
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△6	14
退職給付引当金の増減額(△は減少)	367	308
フェロシルト回収損失引当金の増減額(△は減少)	△1,200	△1,082
関係会社整理損失引当金の増減額(△は減少)	—	4,817
その他の引当金の増減額(△は減少)	△106	△4
受取利息及び受取配当金	△79	△87
支払利息	932	889
為替差損益(△は益)	16	2
持分法による投資損益(△は益)	553	458
固定資産処分損益(△は益)	156	59
長期未払金一括返済益	△317	—
売上債権の増減額(△は増加)	△3,505	△4,263
たな卸資産の増減額(△は増加)	△705	12,930
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△185	56
仕入債務の増減額(△は減少)	△776	4,578
その他の流動負債の増減額(△は減少)	1,116	688
その他	7	175
小計	△900	14,408
利息及び配当金の受取額	78	96
利息の支払額	△879	△897
保険金の受取額	—	19
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△304	△292
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,006	13,334
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△139
固定資産の取得による支出	△3,336	△2,360
固定資産の売却による収入	291	253
貸付けによる支出	△147	△143
貸付金の回収による収入	147	67
その他	94	213
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,950	△2,107

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の償還による支出	△100	△100
短期借入金の純増減額 (△は減少)	763	△1,658
長期借入れによる収入	5,472	2,350
長期借入金の返済による支出	△6,165	△7,640
リース債務の返済による支出	△464	△500
預り金の受入れによる収入	1,462	1,214
預り金の返済による支出	△397	△1,333
自己株式の純増減額 (△は増加)	△1	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	569	△7,671
現金及び現金同等物に係る換算差額	66	403
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,321	3,958
現金及び現金同等物の期首残高	21,732	16,997
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,411	20,955

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	無機化学事業	有機化学事業	建設事業	その他の事業			
売上高							
外部顧客への売上高	27,764	23,782	1,623	487	53,658	—	53,658
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	150	562	713	△713	—
計	27,764	23,782	1,774	1,049	54,372	△713	53,658
セグメント利益 又は損失(△)	3,118	334	△272	69	3,249	△883	2,365

(注) 1 調整額は、次のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△883百万円には、セグメント間取引消去119百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,003百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 地域に関する情報

売上高

(単位:百万円)

日本	アジア	米州	欧州	その他	計
23,011	11,204	7,514	11,759	169	53,658

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎として、国又は地域に分類しております。

2 本邦以外の地域区分は、地理的近接度及び事業活動との相互関連性を勘案して決定しており、各区分に属する主要な国又は地域は、次のとおりであります。

(1) アジア: 中国、台湾、韓国、タイ、インドネシア、シンガポール

(2) 米州: 米国、カナダ、ブラジル、アルゼンチン、メキシコ

(3) 欧州: ドイツ、オランダ、フランス、英国、ベルギー、イタリア、東欧及び中東地域

(4) その他: オーストラリア、ニュージーランド、アフリカ地域

当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	無機化学事業	有機化学事業	建設事業	その他の事業			
売上高							
外部顧客への売上高	27,101	28,295	869	551	56,817	—	56,817
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	—	117	542	661	△661	—
計	27,102	28,295	987	1,093	57,479	△661	56,817
セグメント利益 又は損失(△)	△1,147	431	△106	73	△749	△698	△1,447

(注) 1 調整額は、次のとおりであります。

セグメント利益又は損失の調整額△698百万円には、セグメント間取引消去114百万円、各報告セグメントに  
 配分していない全社費用△812百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない  
 一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2 地域に関する情報

売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	米州	欧州	その他	計
22,929	9,182	9,011	15,598	95	56,817

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎として、国又は地域に分類しております。

2 本邦以外の地域区分は、地理的近接度及び事業活動との相互関連性を勘案して決定しており、各区分に属する  
 主要な国又は地域は、次のとおりであります。

(1) アジア：中国、台湾、韓国、タイ、インドネシア、シンガポール

(2) 米州：米国、カナダ、ブラジル、アルゼンチン、メキシコ

(3) 欧州：ドイツ、オランダ、フランス、英国、ベルギー、イタリア、東欧及び中東地域

(4) その他：オーストラリア、ニュージーランド、アフリカ地域

## 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「無機化学事業」セグメントにおいて、連結子会社ISK SINGAPORE PTE. LTD.での生産終了と会社清算に向けた  
 準備手続き開始に伴い、5,808百万円の固定資産減損損失を計上しております。